ふくしま
水道事業ビジョン2026
～骨子～

2025. 2. 26　水道局

1. 基本理念

未来を拓き、**変革**に挑む水道

～ 信頼される水道であり続けるために ～

2. 視点

安全

いつでも、安心して、水質基準に適合した安全な水が飲めること

強靭

災害による被害を最小限にとどめ、かつ迅速に復旧できること

進化

社会経済情勢を的確に捉え、常に効率的な事業運営とすること

3. 行動指針

挑戦

これまで培った経験や知識を最大化し、
果敢に取り組み(挑み)ます！

連携

新たな発想(広い視野)で
多様な主体とのつながりを目指します！

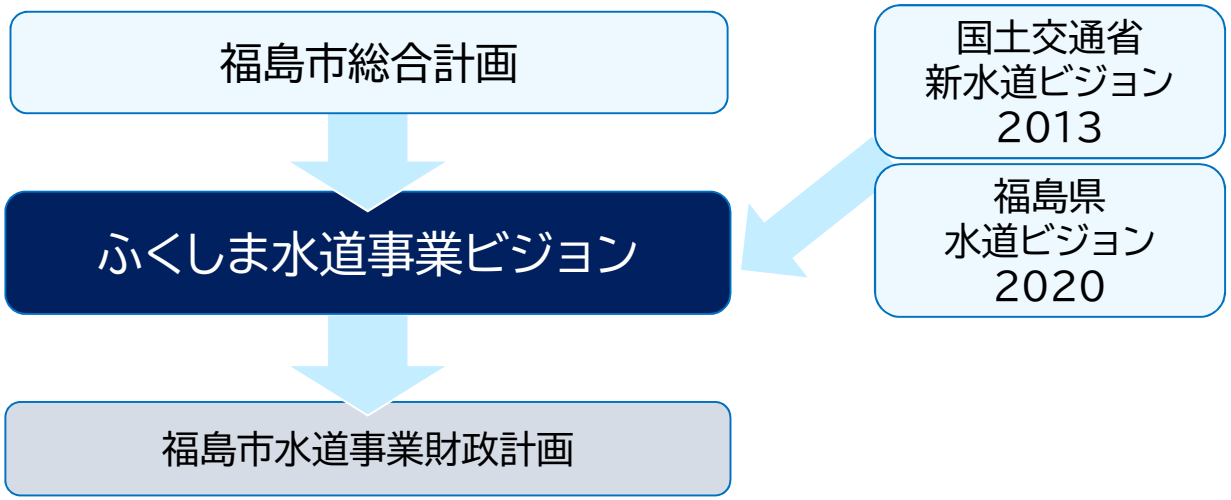
1. 計画の目的・位置づけ

本計画は、2025（令和7）年度に計画期間が終了する現行の「福島市水道事業基本計画2016」に代わる新たな本市水道事業の指針であり、国土交通省が作成を奨励する地域水道事業ビジョンです。
暮らしを支える良質な水道水の安定供給により、安全安心なまちづくりの実現を目指します。

①上位計画との整合
- ▸福島市総合計画
- ▸国、県の水道ビジョン

②現計画の継承

③財政計画への反映



2. 計画期間

2050年の地域社会の姿を見据えた今後10年間の計画とする。

2026（令和 8）年度～2035（令和 17 ）年度 （10 年間）

※水道事業は、長期的計画に基づき施設を整備・更新する必要があるため計画期間を10年とし、技術革新や社会情勢の変化に対応するため、市総合計画にあわせ中間年度である2031（令和13）年度に見直しを行う。

1. 水道事業の経過

本市水道事業は大正14年に創設し、人口の急増や産業の発展などによる水需要増大に対応するため、8次にわたる拡張事業に取り組んできました。

＜拡張事業の経過＞

事業名称	事業年度			概　要
創設事業	大正11年度	～	13年度	渡利浄水場給水開始
第1次拡張事業	昭和22年度	～	23年度	渡利浄水場ろ過池増設
第2次拡張事業	昭和23年度			八島田簡易水道水源改良
第3次拡張事業	昭和25年度	～	28年度	清水水源新設
第4次拡張事業	昭和33年度	～	38年度	渡利浄水場急速ろ過池新設
第5次拡張事業	昭和39年度	～	42年度	宮代水源新設
第6次拡張事業	昭和45年度	～	50年度	渡利浄水場拡張、笹谷水源新設
第7次拡張事業	昭和52年度	～	63年度	渡利浄水場拡張、下野寺水源新設
第8次拡張事業	平成元年度	～	21年度	福島地方水道用水供給企業団からの受水施設の整備

2. 将来(2050年)の姿

＜水需要予測＞

◎ **2035(令和17)年度推計** ※2023(令和5)年度基準

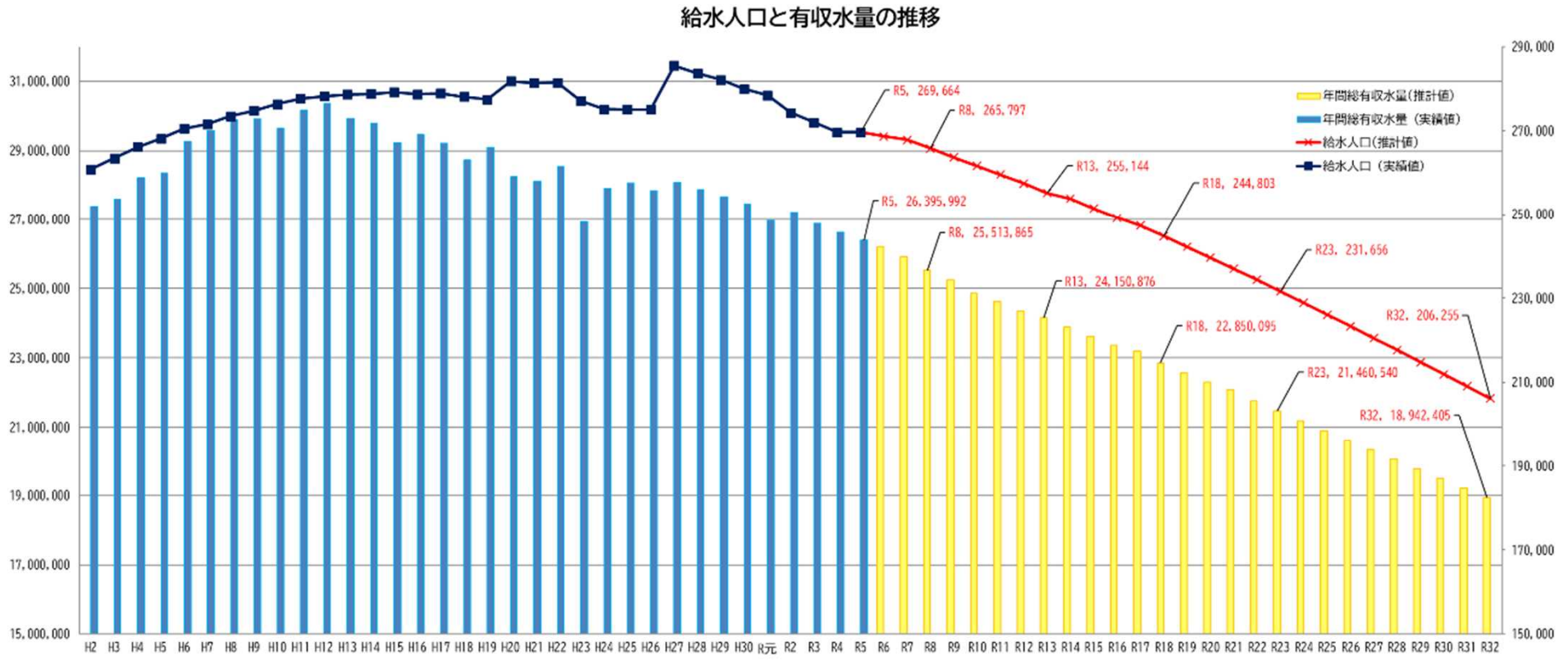
・給水人口　19,538人 減少（7.3%減少）

・有収水量　8,764 m³/日 減少（12.2%減少）

◎ **2050(令和32)年度推計** ※2023(令和5)年度基準

・給水人口　60,604人 減少（23.5%減少）

・有収水量　20,224 m³/日 減少（28.2%減少）



※令和5年に公表された国勢調査に基づく将来推計人口に基づく

3. 現行ビジョンの到達点

基本方針1 「安全でおいしい水の供給」

・民営簡易水道組合3組合（南林・林ノ内・桜本）の上水道統合
・渇水対策として土湯地区水道施設整備事業着工（令和9年度末完了予定）
・公道部鉛製給水管の全部解消

基本方針2 「災害に強い水道の構築」

・基幹管路のレベル2耐震適合率100%（令和7年度末予定）
・基幹施設のレベル1耐震化率100%（令和7年度末予定）
・法改正に基づく水道施設台帳として水道施設情報管理システム導入

基本方針3 「持続可能な水道経営」

・遊休資産の旧渡利浄水場解体（令和8年10月完了予定）
・人工衛星画像を用いた漏水リスク評価導入
・水道施設運転管理業務の企業団・川俣町との共同発注（ふくしま田園中枢都市圏との広域連携）
・管路DB・小規模簡易DBの導入（官民連携）

基本方針4 「地球にやさしい水道への挑戦」

・北部配水池への小水力発電事業

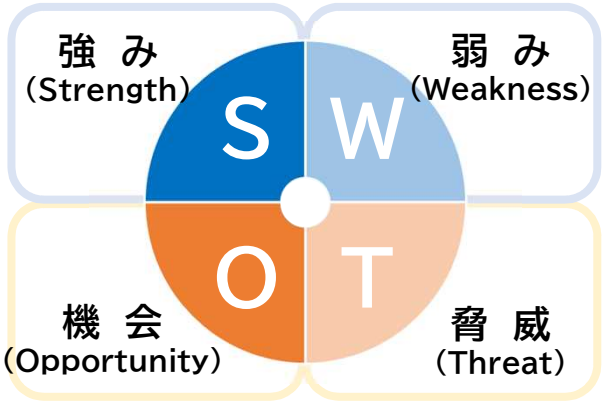
＜大平山配水池耐震補強工事＞

＜北部配水池小水力発電＞

4. 水道事業の現状

（1）現状分析

SWOT分析　既存事業の改善点や伸ばすべきポイント、新規事業の将来的なリスクなどを見つける手法



強み：基幹施設及び基幹管路の耐震化率の高さ　など

弱み：料金収入の低迷　など

機会：AI・DX等による業務の革新　など

脅威：人員不足や技術力の低下　など

クロスSWOT分析　SWOT分析で抽出した各要素を掛け合わせることで、様々な視点から戦略を洗い出し、重要課題を導き出す手法

		内部環境	
		強　み	弱　み
外部環境	機会	強み×機会 強みを発揮して機会を活かす	弱み×機会 弱みを改善・強化し機会を狙う
	脅威	強み×脅威 強みを活かして脅威を切り抜ける	弱み×脅威 弱みを理解し脅威の影響を最小限にする

機会×強み：AI・DX等による業務の革新が進んでいる中、水道ICT情報連絡会へ参画し、人工衛星画像を用いた漏水リスク評価や地上・地下インフラ3Dマップ等の技術を導入している　など

脅威×強み：地球温暖化が加速する中、福島市としてゼロカーボンシティ宣言をし、脱炭素に向けて取り組んでいる　など

機会×弱み：災害意識が高まっている中、応急給水体制が不十分となっている　など

脅威×弱み：料金収入が減少する中、更新事業に多額の費用がかかる　など

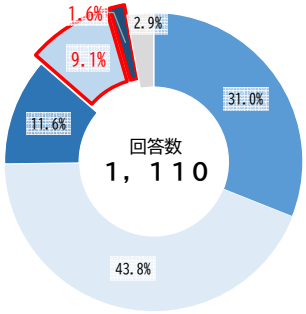
4. 水道事業の現状

（2）お客さまアンケート

水道を利用いただいている皆様の現状や要望等を把握するため、令和6年6月に「**福島市の水道に関するお客さまアンケート**」を実施しました。

対象者：2，500名　　回答者：1，110名（回答率44.4%）

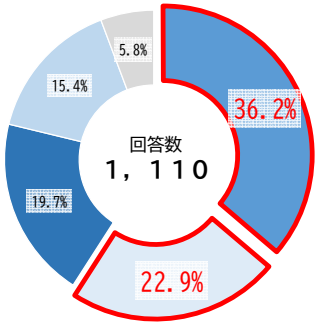
◎水道水の安全性　※一つ選択



- 1．不安は全くない　（回答数　344）
- 2．さほど不安はない　（回答数　486）
- 3．どちらともいえない　（回答数　129）
- 4．やや不安がある　（回答数　101）
- 5．とても不安がある　（回答数　18）
- 6．無回答　（回答数　32）

不安あり　　10.7%

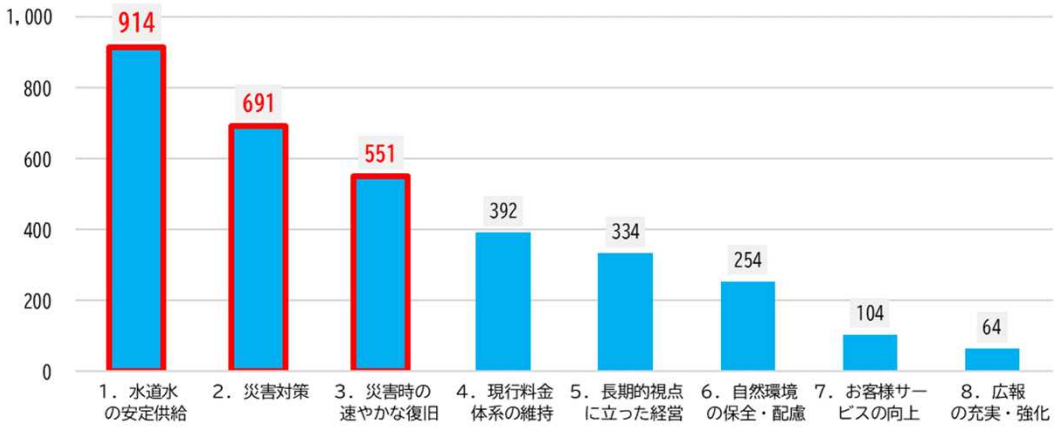
◎水道水の安定供給確保と水道料金引き上げによる事業費確保のバランス　※一つ選択



- 1．更新のための料金引き上げはやむを得ない　（回答数　402）
- 2．更新が遅れても引き上げは一定範囲内　（回答数　254）
- 3．都度修繕して料金据え置き　（回答数　219）
- 4．わからない　（回答数　171）
- 5．無回答　（回答数　64）

更新による料金引き上げもやむを得ない　　59.1%

◎特に重要と感じる取り組み　※複数選択可



1.水道水の安定供給　　全体の82%
2.災害対策　　全体の62%
3.災害時の速やかな復旧　　全体の50%

5. 水道事業の課題

クロスSWOT分析やお客さまアンケートを踏まえ、将来にわたる安全な水の安定供給のためには、長期人口減少社会等に適応した水道事業の基盤強化が重要（求められる）であると捉えました。

01 問題の背景	02 具体的な課題
長期人口減少	水需要の減少による水道料金収入減少 生産人口の減少による人材不足
施設老朽化の進行 頻発する災害	更新や災害対策等への多大な投資

相反する2つの問題の両立

地域全体が備えるべき水道インフラの在り方を見極める時期

社会構造の変化に適応した水道事業の基盤強化

『重点ワード』

① **水道インフラの再編**

② **経営の効率化**

③ **健全な水循環**

ふくしま水道事業ビジョン2026　体系図

基本理念

未来を拓き、変革に挑む水道
～信頼される水道であり続けるために～

視　点

基本理念を実現するための
政策の方向性である
１０年間の基本的な考え方

- **1 安　全**
- **2 強　靭**
- **3 進　化**　新規

施　策　の　柱

基本理念を実現するために
重点的に取り組む**施策の柱**

- (1) 水道水質管理の徹底
- (2) 水源汚染リスク対策　拡充
- (1) 施設の再編　重点①　拡充
- (2) 災害への備え
- (1) 持続可能な水道経営　重点②
- (2) 適切な資産管理
- (3) 広域連携・官民連携
- (4) 人材育成
- (5) ICT・DXの推進　拡充
- (6) 戦略的な広聴広報
- (7) 水循環の形成　重点③　拡充

施　策（全24施策）

基本理念を実現するために
施策の柱と連動して取り組む**施策**

- ① 水質管理の徹底
- ② 給水装置の適正管理
- ③ 水源集水域の保護
- ④ 水源の監視徹底　拡充
- ⑤ 施設再編の推進　拡充
- ⑥ 老朽施設の更新と耐震化
- ⑦ 土湯地区・茂庭地区の安定供給確保
- ⑧ 施設耐震化の推進
- ⑨ 応急給水・応急復旧体制の充実
- ⑩ バックアップ機能の強化
- ⑪ 経営基盤の強化
- ⑫ 適正な施設維持管理
- ⑬ 水道施設情報管理システムの有効活用
- ⑭ ふくしま田園中枢都市圏との連携
- ⑮ 民間技術力の活用
- ⑯ 職員研修計画に基づく人材育成
- ⑰ OJTによる技術継承
- ⑱ 地域全体での技術力確保
- ⑲ 業務革新による効率化とコスト縮減
- ⑳ お客さまサービスの向上　拡充
- ㉑ 水需要拡大喚起対策
- ㉒ 市民ニーズの把握と反映
- ㉓ 脱炭素水道の推進
- ㉔ 再生可能エネルギーの導入　拡充

視点1　安全

施策の柱(1)　水道水質管理の徹底

施策①　水質管理の徹底

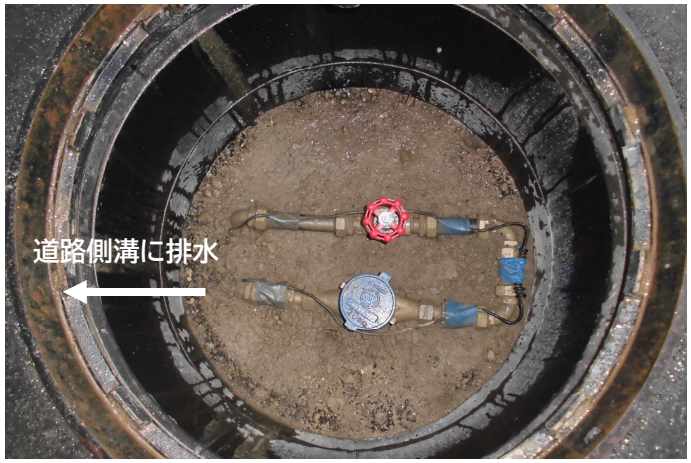
◎ 水安全計画に基づき水質保全を徹底します。
- 自動水質監視装置の導入検討 新
- 管路末端の管理排水の最適化

施策②　給水装置の適正管理

◎ 直結給水を促進します。
- 直結給水方式適用要件の緩和 拡

◎ 貯水槽の適正管理を啓発します。
- 無料点検の実施

◎ 宅地内の鉛製給水管解消に努めます。
- 助成制度の案内



＜管路末端の管理排水＞

凡 例
新 ：新規
拡 ：拡充

視点1　安全

施策の柱(2)　水源汚染リスク対策

施策③　水源集水域の保護

◎　良質で安全な水源を保全します。

・　市民協働による水源保全活動の推進(助成金支給)

◎　水源集水域の環境保護に努めます。

・　条例に基づく新たな開発や環境破壊の抑止 (拡)

施策④　水源の監視徹底

◎　自然災害や水道施設を標的とした人為的被害へ備えます。

・　水源施設の監視徹底 (拡)

＜水源保全活動＞

＜摺上川ダム＞

視点2　強靭

施策の柱(1)　施設の再編　重点①

施策⑤　施設再編の推進

◎　長期人口減少社会に適応した水道全体のシステムを検討します。

・　送配水分離を基本とした将来の施設規模の検討 新

・　単なる更新ではなく統廃合も含めた水運用全体の見直し 拡

◎　民営簡易水道組合の統合事業を推進します。

・　統合意思確認の上、西部地区上水道整備事業の推進

＜老朽管更新工事＞

施策⑥　老朽施設の更新と耐震化

◎　将来人口を見据えた合理的な更新による耐震化を図ります。

・　2050年人口予測及び人工衛星画像を用いたリスク評価を反映した更新計画の立案 新

施策⑦　土湯地区・茂庭地区の安定供給確保

◎　摺上川ダム水への供給切替えに向け、着実に土湯地区水道整備事業を推進します。

◎　立地条件により施設の維持管理負担が大きい茂庭地区への水道供給の将来のあり方を検討します。 新

視点2　強靭

施策の柱(2)　災害への備え

施策⑧　施設耐震化の推進

◎　重要施設(救急医療機関や避難所)に接続する管路の耐震化を促進します。

- 基幹管路を起点に重要施設に接続する配水支管の耐震化 新

＜設置型組立式タンク＞

施策⑨　応急給水・応急復旧体制の充実

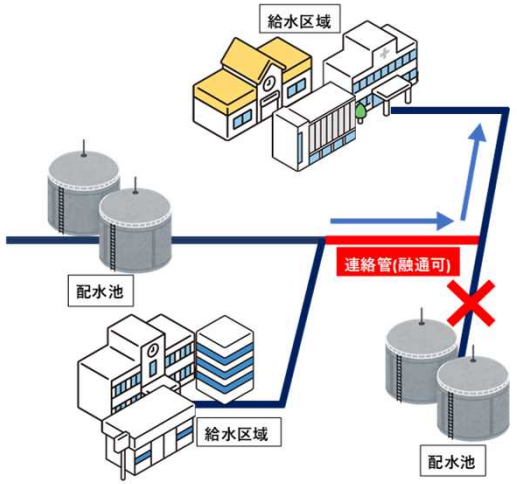
◎　災害への備えを充実させます。

- 災害やテロ、水害など総合的な防災計画の見直し
- DXを活用した情報共有手法等の検討 新
- 定期的な防災訓練の実施
- 給水所への可搬式パネルタンク配置 新
- 避難所等への耐震管路と一体的な非常用給水栓の整備検討 新

施策⑩　バックアップ機能の強化

◎　非常時でも水道供給が継続可能なシステムを検討します。

- 配水池間・近隣市町村との相互融通の検討 拡
- 自家発電設備の導入 新



＜連絡管によるバックアップ機能強化イメージ＞

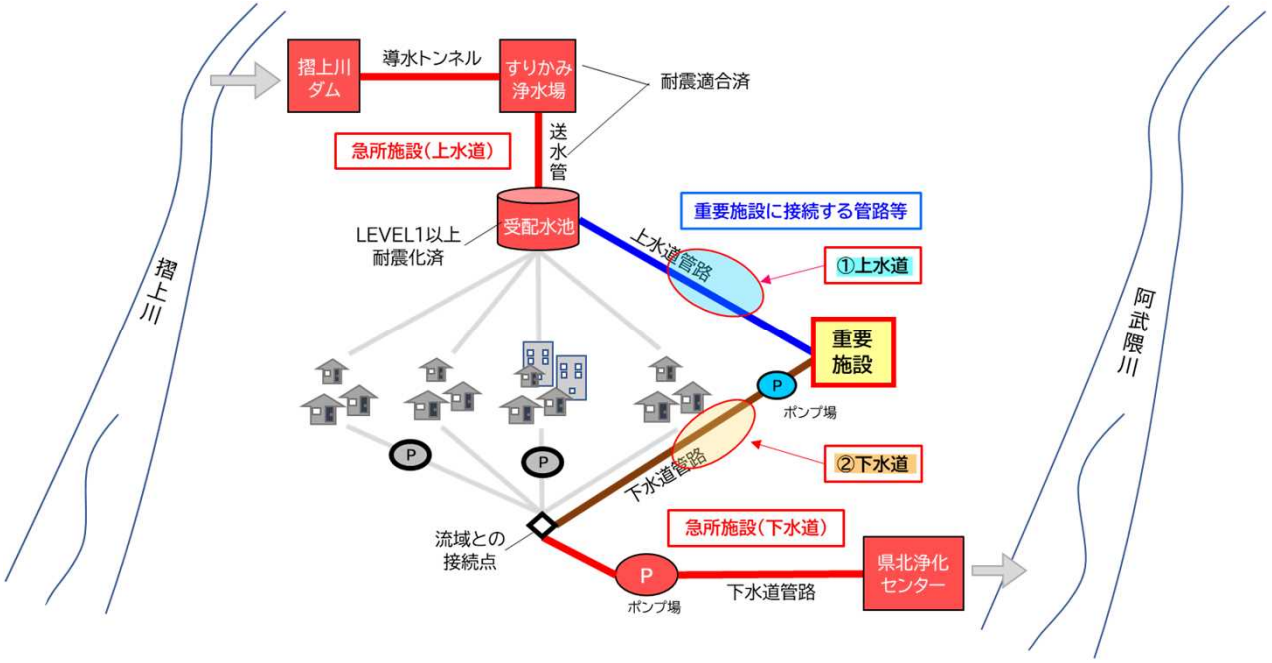
施設耐震化の推進　重点事業

2025(令和7)年度末で耐震適合率100%となる基幹管路を起点に、給水優先度の高い重要施設に接続する配水管の耐震化を上下水道一体で促進します。

以下のとおり重要施設として市内35か所を選定し、

救急医療機関を最優先に、避難所等への耐震化を進めます。

- 県が指定している救急医療機関　全11か所
- 地震災害時、最初に開設を指定している避難所　全19か所
- 市、県の防災機関　5か所



＜重要施設に接続する上下水道一体の耐震化イメージ＞

視点3　進化

施策の柱(1)　持続可能な水道経営　重点②

施策⑪　経営基盤の強化

◎　安定した事業運営に努めます。

- 人口減少の影響を踏まえた財政見通しによる料金体系等の見直し 新
- 関係機関の企業誘致への協力による大口需要者の獲得
- 助成制度活用等による自家用水道から上水道への切り替え促進

＜水道事業経営審議会＞

視点3　進化

施策の柱（2）　適切な資産管理

施策⑫　適正な施設維持管理

◎　予防保全により施設の健全化に努めます。

- 配水池や水管橋の定期的な施設点検
- 防水塗装等の計画的実施

◎　漏水の早期発見・早期修繕を図ります。

- 人工衛星画像を用いた漏水リスク評価を反映した漏水調査 新
- 配水流量計が無い配水ブロックへの計画的な機器整備検討 拡

＜人工衛星画像を用いた漏水リスク評価＞

施策⑬　水道施設情報管理システムの有効活用

◎　水道施設情報管理システム（水道施設台帳）を活用し更なる業務効率化を図ります。

- 決算や統計事務への連動 新
- 非常時の水運用支援等システムの運用拡大 新

視点3　進化

施策の柱（3）　広域連携・官民連携

施策⑭　ふくしま田園中枢都市圏との連携

◎　構成事業体との広域連携について検討します。

・　より効率的な経営手法や技術レベルの向上

・　広域水道地図の作成を契機とした供給の融通や協力体制強化 新

＜ふくしま田園中枢都市圏WG＞

施策⑮　民間技術力の活用

◎　給水装置関連業務の包括委託を行います。

・　水道料金等徴収業務に併せた段階的な給水装置関連業務包括委託の導入 新

・　将来的な給水装置業務全般の第三者委託の検討 新

◎ 官民連携による技術継承や経済性・効率性を高めます。

・　官民連携の応急復旧訓練

・　DB（デザインビルド）の活用 拡

視点3　進化

施策の柱（4）　人材育成

施策⑯　職員研修計画に基づく人材育成

◎　効率的・効果的に人材育成を図ります。

- 内部・外部研修の充実 (拡)
- 資格取得支援

施策⑰　OJTによる技術継承

◎　業務マニュアルの習得時間や現場機会を増やします。

- 熟練職員の経験知・暗黙知を含めたOJT
- 業務マニュアル等の蓄積及び閲覧環境「ナレッジバンク」の利活用 (拡)
- OJT指導者の育成 (拡)

施策⑱　地域全体での技術力確保

◎　業界全体での技術力確保を図ります。

- 広域連携や官民連携による講習会の実施
- 災害時の対応訓練を継続的に実施
- 表彰制度や小規模簡易DBの本格導入 (拡)

＜応急復旧訓練＞

視点3　進化

施策の柱（5）　ICT・DXの推進

施策⑲　業務革新による効率化とコスト縮減

◎ 定型業務等へのAIやICTの導入検討を進めます。

- 人に代わるシステム（水系切替支援ツール、スマート応急給水等）の導入検討 新
- システム内製化の推進 拡

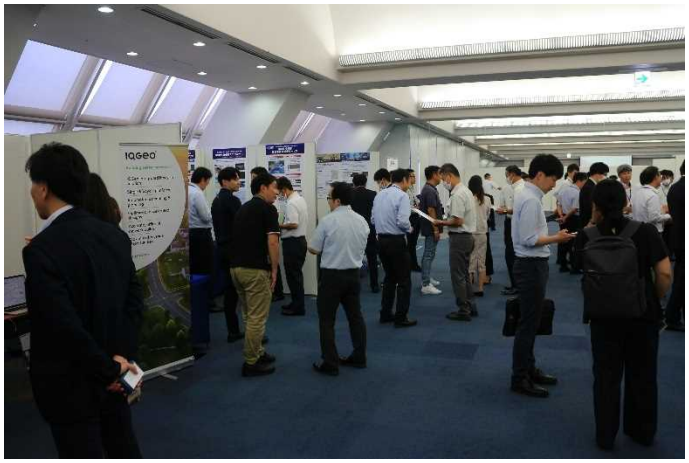
施策⑳　お客さまサービスの向上

◎ スマートメーターを導入します。

- スマートメーターのモデル地区への導入 新
- 通信アプリの導入 新

◎ 水道料金等支払い方法を拡充します。

- キャッシュレス決済の導入 拡



＜水道ICT情報連絡会＞

＜スマートメーター＞

視点3　進化

施策の柱（6）　戦略的な広聴広報

施策㉑　水需要拡大喚起対策

◎　新たな生活習慣の提案により水需要拡大に取り組みます。

- マイボトル利用促進 新
- 新たな給水スポット等の検討 新

＜マイボトル冷水器＞

施策㉒　市民ニーズの把握と反映

◎　市民ニーズを把握しターゲットを考慮した広報に努めます。

- 広報紙「SuRiKaMi」読者・移住者アンケート
- インスタグラム・YouTubeの運用 拡

◎　職員が出向いて水道事業への理解の浸透に努めます。

- 市民団体等を対象にした水道出前講座の実施
- 小学生を対象とした水道出前教室の実施

◎　料金とサービスの納得感の醸成に努めます。

- 興味関心を引くような効果的な広報展開 拡

＜インスタグラム＞

視点3　進化

施策の柱（7）　水循環の形成　重点③

施策㉓　脱炭素水道の推進

◎「チャレンジ2050ゼロカーボンふくしま市」実現の一躍を担います。

- 位置エネルギーを再考した施設再編の検討 新
- LED照明、高効率ポンプの導入等あらゆる角度からの脱炭素の推進 拡

＜高効率ポンプ＞

施策㉔　再生可能エネルギーの導入

◎　新たな再生可能エネルギーを導入します。

- 中央部受水地における小水力発電事業の実施 新
- ポンプ所等の建物や限られたスペースを有効活用した太陽光発電導入 新

行動指針

ふくしま水道事業ビジョン2026では、「安全」「強靭」「進化」の視点に立脚して施策目標を定め、取り組むべき施策の方向性を示しています。

施策目標の具現化に向け、「 **挑戦** 」と「 **連携** 」を職員共通の行動指針とします。

挑戦

これまでの常識を排し、新たな社会構造の変化に適応するため、

これまで培った経験や知識を最大化し、
果敢に取り組み（挑み）ます！

連携

近隣水道事業体や民間事業者等の枠を越え、各々が置かれた状況や自ら果たすべき使命を認識し、

新たな発想（広い視野）で
多様な主体とのつながりを目指します！